



ゾミア

ヴィパート・プリチャーノン

ゾミアとは、インド北東部と中国南西部をつなぐ、東南アジア大陸部にある巨大な山塊を示すために造られた地理学用語である。高地に住む少数民族が国家に対して行ってきた抵抗の歴史を探究するために、政治学者ジェームズ・C・スコットが著した『ゾミア—脱国家の世界史』（原著：2009年、日本語版：2013年）によって広く知られるようになった。高地文化についてのスコットの分析は、アジアの現代美術にインスピレーションを与え、ダッカ・アート・サミットでの「野獣、神と線」（2018年）や、台中での第7回アジア・アート・ビエンナーレ「山と海を越えてやってきた異邦人」（2019年）、第6回シンガポール・ビエンナーレ「正しい方向へ進むための歩み」（2019年）といった国際展に影響を与えている。

現代美術におけるコンセプトとしては近年採り入れられたものだが、この用語は、東南アジア美術史の境界に基づいて決められた既存の地理的制限に挑み、民族誌的調査に専有されていた研究に新分野を開くものである。



共同体写真プロジェクト、2007-2008年、メーホンソン県、タイ

Courtesy: 「ロックシェルタープロジェクトの（異なる）地平線から」とヴィパート・プリチャーノン



ヴァングウア・アンソニー・ヴェー 《現在-過去-類型》 2019年、シンガポール・ビエンナーレ2019の
コミッション作品、ギルマン・バラックス、ブロック9での展示風景、ビニールとガムテープに写真プ
リント、サイズ可変。

関連ワード

ゾミア—脱国家の世界史